

# 古宇郡漁協地域プロジェクト(ホタテ貝養殖業)

( ホタテ貝養殖業者1経営体 )

## もうかる漁業創設支援事業検証結果報告書 (資源管理に伴う他魚種転換等の経営多角化の実証事業)

事業実施者:古宇郡漁業協同組合

実施期間:平成28年6月1日～令和元年6月30日(3事業期間)

### 1. 事業の概要

本事業は、スケトウダラ漁業者を含む沿岸漁業者の協業化、及びホタテガイ養殖業と他種漁業との兼業による経営の多角化を推進するため、現在海外向け輸出が好調な2年貝の生産に取り組み、スルメイカ、ホッケ、ブリ、スケトウダラなどの回遊性資源等、不安定な資源に依存しない、計画的かつ安定した生産体制を構築するとともに、地元の若者やUターンなどの新たな漁業の担い手を創出し、地域の活性化を目的としたものである。

この計画に基づき、スケトウダラ漁業者を含む沿岸漁業者8名により合同会社を設立してホタテガイ養殖業を専業化し、ホタテガイ養殖生産に取り組んだ。また、ホタテガイ養殖作業に従事しない日には、他種漁業に兼業として取り組むなど、沿岸漁業経営の多角化にも努めた。

### 2. 実証項目

#### 【生産に関する事項】

##### 燃油消費量の削減

###### A 経営の多角化

スケトウダラ漁業者を含む沿岸漁業者グループが取り組む、ホタテガイ養殖業と他種漁業との兼業による経営の多角化を推進するため、ホタテガイ養殖施設を、現行の9基より24基増設し、33基での生産体制に拡大する。

また、稚貝は他産地から調達し、且つ、養殖期間の短い2年貝の生産を行うことにより、養殖作業の軽減及び期間の短縮を図る。

###### B 合同会社の設立

スケトウダラ刺網漁業者を含む沿岸漁業者グループにて協業化し、合同会社を設立する。

###### C 作業の機械化

ドラム式ホタテ貝ミキサーを導入し、出荷時の貝洗浄・選別作業の機械化を図り、作業を効率化する。

### 3. 実証結果

他産地からの稚貝購入と2年貝生産による養殖期間の短縮により、他種漁業とホタテガイ養殖業との両立が可能となり経営の多角化が図られ、他魚種への依存度が軽減された。

	計画	1年目	2年目	3年目
水揚量(トン)	180.0	141.1	153.0	185.2
水揚額(千円)	45,107	80,062	54,460	56,846
平均単価(円/kg)	250	569	350	307

○他魚種への依存度(計画31%)

1期:25%、2期:33%、3期:24%

計画通り、平成27年4月に漁業者8名にて、合同会社泊ホタテ養殖部会を設立した。

合同会社の設立によって作業が効率化され、漁業者個々の負担が軽減された。

事業の経過と共に日々の作業手順も更に良くなり、陸上・海上それぞれの作業負担が軽減された。このため出面の安定的な確保にも繋がった。

1期目において、計画通りドラム式ホタテ貝ミキサーを導入した。1日の出荷作業時間は計画通り短縮できたが、3期は時化続きで出荷が計画通り進まなかった。その結果、1回当たりの出荷量を増やしたため全体の作業時間が増加し、結果的に作業員の人件費が計画を上回る結果となった。

○1日の作業時間.....10時間→4.8時間

○1日の出荷作業時間 6時間→4.5時間

○作業が効率化され、作業時間が短縮されたことで、1日当たり従来の2倍の量の水揚が可能となった。

○出荷時出面人件費(計画1,248千円)

	計画	1年目	2年目	3年目
出荷時出面人件費(千円)	1,248	1,180	1,495	1,692

## 2. 実証項目

D 作業船の兼用  
 合同会社の社員の所有船(定置漁船)をホタテガイ養殖に兼用する。  
 合同会社所有の専業船と2隻体制で行う。

### 【流通販売等に関する取り組み】

E 販路の安定的な確保  
 北海道漁業協同組合連合会との共同販売を主軸とし販路の安定的な確保に取り組む。

## 3. 実証結果

○ 2隻体制にすることで作業効率が上がり船上作業日数(計画65日)を短縮することが出来た。

	計画	1年目	2年目	3年目
船上作業日数(日)	65	65	60	60

○ 社員の所有船を養殖作業に兼用することで作業船の導入コストの削減が図られた。

北海道漁連との共同販売をすることで、安定的な販路が確保でき、価格も安定的に高値で推移した。

## 4. 収支、経費、償却前利益及びその計画との差異・その理由

### 【収入】

ホタテガイの単価が良かったため、水揚量は計画を下回った期もあるが、3期共に計画を上回る水揚額であった。特に1期については、水揚量は計画を下回ったが、単価が計画の2倍以上だったため計画を大きく上回る水揚額となった。

### 【経費】

水揚げが好調であったため、販売経費が計画を上回った。また、想定以上にカゴ等の消耗が激しく、船もメンテナンスを要したため、漁具費や修繕費が計画を上回った。

### 【償却前利益】

3期共に計画を上回るか同等の償却前利益が得られた。特に1期の水揚げが非常に良く、償却前利益は計画の4倍を超える額となった。

## 5. 次世代船建造の見通し

計画: 償却前利益 次世代船建造までの年数 養殖施設等の合計額  
 8.2百万円 × 15年 > 84百万円  
 (改革5期目の平均値を基に算定)

↓

実績: 償却前利益 次世代船建造までの年数 養殖施設等の合計額  
 21.1百万円 × 15年 > 84百万円  
 (改革3期間の平均値を基に算定)

ホタテ単価が好調に推移し、計画を上回る償却前利益が得られ、養殖施設等の更新は計画通り見込める見通しとなった。

## 6. 特記事項

ホタテガイの単価が好調に推移し、大きな斃死等の発生もなかったことから計画以上の利益を得ることが出来た。しかし、主な輸出先である韓国については政情不安もあることから、今後も効率的な作業の実施や経費削減、安定的な販売ルートの確保等を目指し、持続的な収益確保が出来るように今後も取り組みたい。

事業実施者: 古宇郡漁業協同組合 (TEL:0135-75-3111)

(第88回中央協議会で確認された。)